

2024年12月15日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒93番（旧150番）（KH姉）

『家なき旅人』

聖書⇒イザヤ書8章22~9章2節（MM姉）

『地を見渡せば、見よ、苦難と闇、暗黒と苦悩、暗闇と追放。

今、苦悩の中にある人々には逃れるすべがない。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見／

死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。

あなたは深い喜びと／

大きな楽しみをお与えになり／

人々は御前に喜び祝った。

刈り入れの時を祝うように／

戦利品を分け合って楽しむように。』

讃美歌⇒100番

『生けるもの凡て』

聖書⇒詩編16編8~11節（SK兄）

『わたしは絶えず主に相對しています。

主は右にいまし／

わたしは揺らぐことはありません。

わたしの心は喜び、魂は躍ります。

からだは安心して憩います。

あなたはわたしの魂を陰府に渡すことなく／

あなたの慈しみに生きる者に墓穴を見させず

命の道を教えてくださいます。

わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い／

右の御手から永遠の喜びをいただきます。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 1 章 1~2 節

『神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。』

< 祈 >

讃美歌 21⇒244 番 (RM 姉)

『キリストは明日おいでになる』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒145 番 (旧 60 番)

『主イエスよわれらは』

《建徳》

聖書⇒ミカ書 1 章 1、2~4、7 節 (TM 兄)

『ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に、モレシエトの人ミカに臨んだ主の言葉。それは、彼がサマリアとエルサレムについて幻に見たものである。』

諸国の民よ、皆聞け。大地とそれを満たすもの、耳を傾けよ。主なる神はお前たちに対する証人となられる。主は、その聖なる神殿から来られる。見よ、主はその住まいを出て、降り／地の聖なる高台を踏まれる。山々はその足もとに溶け、平地は裂ける／火の前の蠟のように／斜面を流れ下る水のように。

サマリアの彫像はすべて砕かれ／淫行の報酬はすべて火で焼かれる。わたしはその偶像をすべて粉碎する。それは遊女の報酬から集めたものだから／遊女の報酬に戻される。』

聖書⇒ミカ書 4 章 10c~d 節

『バビロンにたどりつけば／そこで救われる。その地で、主がお前を敵の手から贖われる。』

聖書⇒ミカ書 5 章 1 節

『エフラタのベツレヘムよ／お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために／イスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。』

聖書⇒ミカ書 6 章 8 節

『人よ、何が善であり／
主が何をお前に求めておられるかは／
お前に告げられている。
正義を行い、慈しみを愛し／
へりくだって神と共に歩むこと、これである。』

聖書⇒ミカ書 7 章 18~20 節

『あなたのような神がほかにあろうか／
咎を除き、罪を赦される神が。
神は御自分の嗣業の民の残りの者に／
いつまでも怒りを保たれることはない／
神は慈しみを喜ばれるゆえに。
主は再び我らを憐れみ／
我らの咎を抑え／
すべての罪を海の深みに投げ込まれる。
どうか、ヤコブにまことを／

アブラハムに慈しみを示してください／
その昔、我らの父祖にお誓いになったように。』

聖書⇒ルカによる福音書 2 章 1~7 節 (KH 兄)

『そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。』

讃美歌⇒109 番 (KH 兄)

『きよしこの夜』

《建徳要旨》